

4 月 21 日（日）に行われた平成 31 年春期の情報処理技術者試験について、基本情報技術者試験の合格発表がありました。試験に関する統計データをもとに、全体の得点分布と合格率関連の情報をお知らせします。

■基本情報技術者試験(FE)

[平成 31 年春期の基本情報技術者試験 統計情報]

応募者	77,470 人
受験者	54,686 人
合格者	12,155 人
合格率	22.2%

平成 31 年春期の試験結果は合格率が 22.2%で、前回の平成 30 年秋期の 22.9%からさらに下がりました。その前の合格率は、平成 30 年春期 28.9%、平成 29 年秋期 21.8%、平成 29 年春期 22.5%ですが、現在の試験制度になってからの平均合格率は約 25%なので、最近はやや低い合格率で推移しているといえます。

試験センターから発表された基本情報技術者試験の得点分布をグラフと合わせて示すと、次のようになります。なお、統計情報の受験者数が、午前試験の受験者数よりも 8,238 人多いことから、教育機関で所定の学習を修了し（弊社アイテックも含まれます）、午前試験免除で受験した方が、おおよそこの人数いたと考えられます。

[平成 31 年春期 統計情報(基本情報 得点分布)]

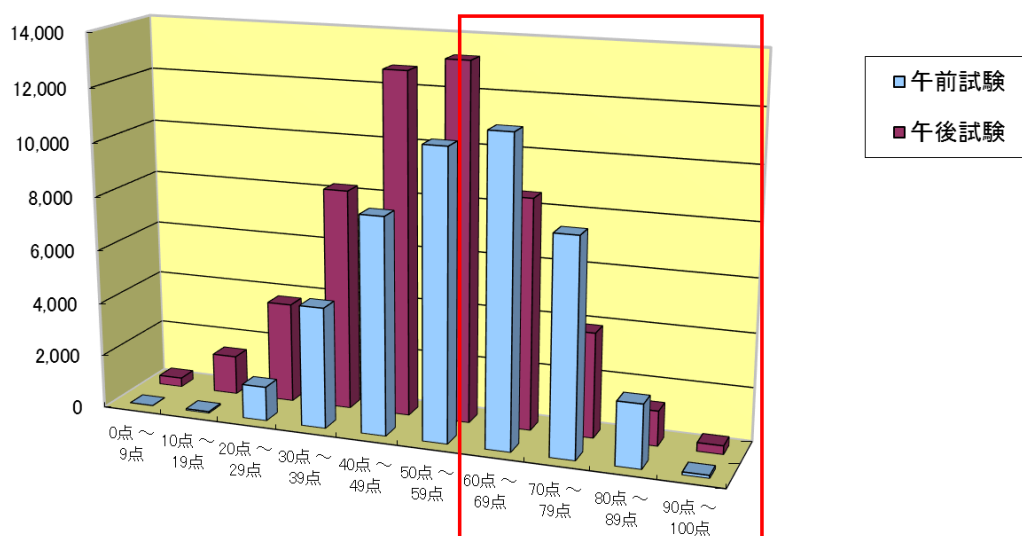
得点	午前試験	午後試験
0 点 ~ 9 点	9	342
10 点 ~ 19 点	59	1,462
20 点 ~ 29 点	1,283	3,746
30 点 ~ 39 点	4,518	8,262
40 点 ~ 49 点	8,061	12,775
50 点 ~ 59 点	10,698	13,265
60 点 ~ 69 点	11,349	8,562
70 点 ~ 79 点	8,009	3,906
80 点 ~ 89 点	2,353	1,307
90 点 ~ 100 点	109	323
計	46,448	53,950

午前と午後の差 (午前免除者予測) 8,238

合格者数 12,155

	午前試験	午後試験
60 点以上合計	21,820	14,098
合格者数との差	9,665	1,943

平成31年春 統計情報（基本情報技術者試験 得点分布）



今回の結果を少し詳しく分析すると、午前試験で合格基準点の60点以上の人は21,820人、受験者の47.0%（前回は41.1%）で前回よりも6%ほど上がっています。新傾向問題もいくつか出題されましたが、定番の過去問題も多かったことから比較的得点しやすかったと考えられます。

一方、午後試験が基準の60点以上だった人は14,098人（午後試験受験者の26.1%）いて、前回の28.5%から下がっています。今回の午後試験は必須問題を含めて技術系問題がやや難しく、得点を下げた原因になったと思われます。

ここで、午前試験であと10点足りなかった人（得点50～59点）が10,698人（全体の23.0%）でした。また、午後試験であと10点足りなかった人は13,265人（全体の24.6%）ですが、前回の試験よりも割合が増えており、苦戦した人が多かったといえます。

合格点まで10点足りない“あと一歩”の人は毎回結構高い比率でいることから、午前試験では仕上げの学習を確実にを行い、しっかり知識を定着させる必要があります。また、午後試験では、まずは午前試験で出題される知識を確実に理解すること、次に問題演習では15分～30分という標準解答時間中は、仮に分からないところがあっても、問題文からヒントを探し考え続ける力を養うこと、そして、模擬試験を受験してアルゴリズムやプログラム言語問題を解くときに、解答時間の調整に慣れるなど、実戦的な力を身に付けることが重要です。

今回の試験の傾向や特徴を少し細かい内容をまとめると、次のようになります。

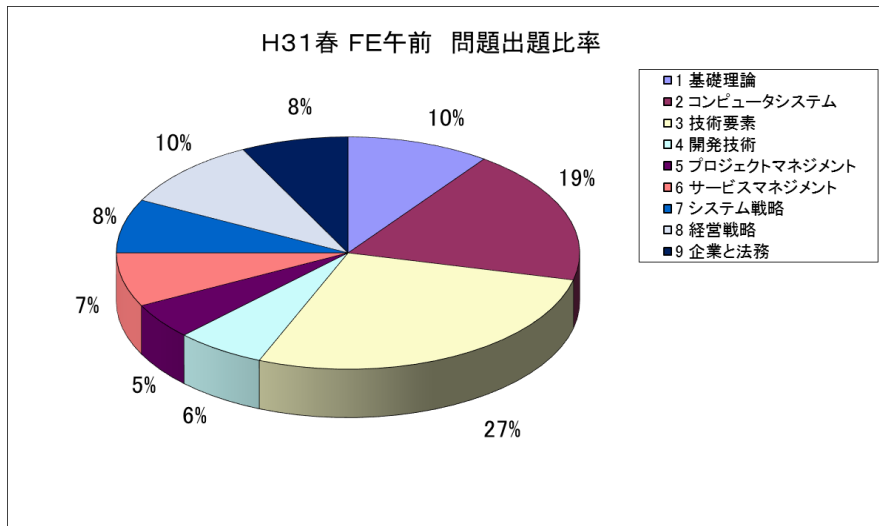
〔午前問題〕

- ・今回の分野別出題数は前回同様、テクノロジーが50問、マネジメントが10問、ストラテジが20問でした。
- ・過去問題の出題数は前回とほぼ同じ全体の約6割ですが、基本情報の過去問は36問（前回37問）でほぼ同じ、応用情報の過去問は11問（前回8問）で増えています。
- ・問題パターンは文章問題44問と考察問題12問が各2問ずつ前回より増え、計算問題11問と用語問題13問が各2問ずつ前回より減りました。
- ・問題の難易度については前回とほぼ同じ程度と考えられます。
- ・新傾向の問題は今回次の11問の出題があり、前回の12問とほぼ同じですが、AI、IoT、ビッ

グデータ関連の内容が含まれています。他に 3D プリンタ，コンバージョン率の問題が出題されました。

- 問 4 機械学習における教師あり学習の説明
- 問 12 3D プリンタの機能
- 問 16 タスクのディスパッチの説明
- 問 23 サーバ，ネットワーク機器に対する直流給電の利点
- 問 30 キーバリューストアの説明
- 問 52 プレシデンスダイアグラム法 (PDM)
- 問 62 オンデマンド型のサービス
- 問 64 ビッグデータの活用事例
- 問 69 ショッピングサイトの画面デザイン見直し効果を示す値
- 問 73 シェアリングエコノミーの説明
- 問 76 社内カンパニー制の説明

平成 31 年春期の基本情報技術者試験



(テクノロジー分野:1~4, マネジメント分野:5~6, ストラテジ分野:7~9)

出題数が 10 問と最も多いセキュリティ分野に関しては新しい話題も日頃から理解するように心がけ，午後試験で必須となったセキュリティ問題を解答するのに必ず必要な知識と考えて，最近の出題内容を確実に理解しておく必要があります。

また，AI，IoT，ビッグデータ関連の問題は，過去問題が少ないですが，平成 30 年以降に出題された問題は理解しておきましょう。

〔午後問題〕

問 1 の情報セキュリティが必須，問 2~7 の知識の応用問題から 4 問選択，問 8 のアルゴリズムが必須，問 9~13 のプログラミングの問題から 1 問選択という形式です。

今回の午後試験では，必須問題の情報セキュリティとデータベース，ネットワークといった技術系の問題が過去の試験であまり出題されていない内容でやや難しかったといえます。また，必須のアルゴリズムの問題もハフマン符号を題材にした内容で解答しづらく，全体として，前回試験と同様にやや解答しづらい問題だったといえます。

出題された午後試験問題の出題分野とテーマは、次のとおりです。

問	テーマ	出題分野	難易度
1	クラウドサービスの利用者認証	情報セキュリティ	普通～やや難
2	仮想記憶方式	ソフトウェア	普通
3	定期健康診断のデータが登録されているデータベース	データベース	やや難
4	eラーニングシステムの構成変更	ネットワーク	やや難
5	農産物の検査管理システム	ソフトウェア設計	やや易～普通
6	社内システムの仕様変更の扱い	プロジェクトマネジメント	普通
7	製造業における情報システムの統合	システム戦略	普通
8	ハフマン符号化を用いた文字列圧縮	データ構造及びアルゴリズム	やや難
9	入力ファイル中の文字の出現回数の印字	C	普通
10	学習塾のテスト結果の印字	COBOL	普通
11	迷路と迷路上を移動する駒	Java	普通
12	ビット列に対する操作	アセンブラ	普通～やや難
13	販売促進活動における販売データの利用	表計算	普通

必須問題の間 1 情報セキュリティの出題内容は、クラウドサービスの利用者認証をテーマとして、サービスが利用可能になるまでの流れが出題され、実務などを通じて知識のある人はスムーズに解答できたと思いますが、多くの人は難しく感じたと思われます。

問 2～問 4 は、前回と同様にソフトウェア、データベース、ネットワークのテーマで出題されました。問 2 のソフトウェアは仮想記憶方式の問題で過去にも類似の問題が出題されています。問 3 のデータベースの問題では過去あまり出題されていないビューや制約の問題が出題されやや難しく、問 4 のネットワーク問題も IP アドレスに加えて M/M/1 の待ち行列問題が出題され、やや難だったと思われます。

また、問 5 のソフトウェア設計でも過去に出題のない WebAPI が出題されました。戸惑った人も多かったと思われます。

問 6 のマネジメント分野の問題は前回と同じプロジェクトマネジメントの問題で、変更管理と進捗管理の内容でしたが、標準的な内容だったといえます。

問 7 のストラテジ分野の問題はシステムのデータ連携の内容でしたが、標準的といえます。

問 8 のアルゴリズム問題は、ハフマン符号と使った文字列の圧縮の問題でしたが、テーマ自体馴染みの薄い人も多いと思われ、またハフマン木のつながりを表すデータの把握にも時間がかかったと思われ、やや難だったといえます。

問 9～問 13 のプログラム言語の問題では、アセンブラのビット処理が少し難しい内容でしたが、他はほぼ従来と同じ難易度で標準的な内容でした。